

平成24年度第1回流山市文化財審議会会議録

1 開催日時

平成24年11月28日（水）

午後1時30分から午後3時20分まで

2 場所

(1) 会議：中央図書館会議室

(2) 視察：愛染堂 鱒ヶ崎三本松古墳 光明院 赤城神社

流山三丁目庚申祠 寺田園茶屋（見世蔵） 浅間神社

武村家住宅 寝具ササヤ土蔵 ましや呉服店

3 次第

(1) 委嘱状交付式

(2) 教育長挨拶

(3) 開会

(4) 委員紹介

(5) 会長・副会長選出

(6) 会長・副会長挨拶

(7) 議題

(8) 閉会

4 議題

(1) 平成23年度流山市文化財保護推進事業報告について

(2) 平成24年度流山市文化財保護推進事業実施状況について

(3) 流山市国・県文化財保存事業補助金交付規則の制定について

(4) その他

(5) 現地視察

5 出席委員

審議会委員

古谷和史会長 鎧禮子副会長 下津谷達男委員 小川浩委員

日塔和彦委員 松浦宥一郎委員 山田友治委員 常木晃委員

欠席：武田昭子委員（出席8名・欠席1名）

6 事務局

後田教育長 鈴木図書・博物館長 須田図書・博物館次長

小栗学芸係長 増崎主任学芸員 北澤主任学芸員 小川主任学芸員

7 傍聴者

なし

8 平成24年度第1回流山市文化財審議会会議録

【委嘱状交付式】

(須田図書・博物館次長)

司会進行の図書・博物館次長の須田です。

先ず流山市文化財審議会委員の委嘱状を教育長から交付致します。

「委嘱状交付」

続いて教育長挨拶。

【教育長挨拶】

【開会】

【委員紹介】

(須田図書・博物館次長)

今期は全員再任のため紹介は省略致します。

志田委員の再任辞退を受け、委員数は9名です。

次に鈴木図書・博物館長による職員の紹介を致します。

(鈴木図書・博物館館長)

館長による事務局職員の紹介。

【平成24年度第1回流山市文化財審議会】

(須田次長)

第1回流山市文化財審議会の開催致します。

会長・副会長の選出を審議委員に依頼致します。

それまでは鈴木博物館長が代行致します。

【会長・副会長選出】

(下津谷委員)

全委員再任であることから前回同様、会長に古谷氏、副会長に鎧氏を推薦致します。

(鈴木館長)

会長に古谷委員、副会長に鎧委員で異議はありませんか。

「各委員異議無し、会長に古谷委員、副会長に鎧委員で承認」

「流山市文化財保護に関する条例」第7章第46条第1項の規程により、会議の議長は会長に務めていただく事となっているため、これより古谷委員による議事進行となる。

【会長・副会長挨拶】

(古谷会長挨拶)

(鏝副会長挨拶)

(古谷会長)

議事進行に先立ちまして、事務局に出席数の報告を求めます。

(小栗学芸係長)

本日の議事につきましては委員9名中8名の出席で、半数以上の出席であるため、「流山市文化財の保護に関する条例」第7章第46条第2項により、会議が成立していることを申し上げます。

(古谷会長)

只今の報告により、会議成立です。次第により議事を進行致します。

【議題】(1)平成23年度流山文化財保護推進事業報告について

(小栗学芸係長)

資料1の目次をご覧ください。平成23年度は文化財の指定・登録について2件、文化財の調査・周知・補助事業等6件を実施致しました。

詳細は担当の増崎が説明致します。

(増崎主任学芸員)

資料に沿って1「平成23年度流山市文化財保護推進事業の報告」を致します。

文化財の指定・登録については、資料の1頁をご覧ください。「流山三丁目庚申講関係資料」を平成23年7月19日に市の有形民俗文化財として指定致しました。

次に資料1の5頁、国登録有形文化財(建造物)「寺田園旧店舗」は日塔先生を初め、審議委員のお力添え頂きまして平成23年7月25日に国の登録原簿に記載が決定致しました。

調査・周知・補助事業のうち文化財調査事業では、資料8頁の「武村家旧宅」と「寝具ササヤ土蔵 実測調査」を行いました。

「寝具ササヤ土蔵」は商工課のまちづくりプロジェクトと連動していますが、調査は市内の「日本建築研究所」に委託して行いました。この現状調査を基礎にして日塔先生から詳細な報告を頂きました。

武村家はイタリアンレストランとパン屋で営業しておりますが、かつては武村医院と丁字屋という足袋屋で構成されておりました。

足袋屋の部分は、裏の土蔵の建築年代から大正8年の建造物です。

医院は足袋屋よりも古いという所有者の話ですが、詳細な建築の年代は不明です。どちらも築50年以上のため登録推薦は可能です。

ただ、改築の具合等から足袋屋(丁字屋)は登録推薦と考えており、

日塔先生による改装後のコメントを基にして、事務を進める予定です。

次に資料15頁、ササヤ寝具土蔵ですが、16頁の写真のように、震災でかなりヒビが入ってきております。

この土蔵は明治31年に引き家をしたことが屋根裏の梁に記されておりました。現在は改装してコーヒーショップとして営業しています。

博物館では改装前の図面を作成して、日塔先生に現地調査を依頼しました。今後は登録を視野に入れていきます。

文化財の周知事業は、資料24頁の国登録有形文化財「寺田園旧店舗」に文化財周知の看板を設置致しました。

次に資料25頁の市指定有形文化財「木造愛染明王坐像」ですが、つくばエクスプレス関係の区画整理に伴うお堂の移転により、御像の修理、御堂と看板の新しく致しました。

市指定有形民俗文化財では、資料26頁の「流山三丁目庚申講関係資料」について、市指定に伴い説明看板を設置致しました。

また祠は傷みが激しいため、写真のような上屋を設置致しました。以上ですが、補足すべき事項がありましたら、日塔先生お願いします。

(古谷会長)

それでは、日塔委員お願いいたします。

(日塔委員)

登録基準の必要条件である50年を2棟とも満たしてはいますが、外観や建築的構造も検討課題となります。

足袋屋の外観は少し改装されていますが、問題ありません。内部は歴史を感じます。一部を厨房に改装していますが、本体の構造が変わっていないことが幸いしました。

医院の方はパン屋への改装時にかなり大きく変更されており、特に外観の変化が大きいことから、推薦に関しては問題となりました。残念です。

土蔵の年代ですが23頁にあるように、棟札の「大正拾弐年」と考えられます。土蔵と店舗は一体的に作っている痕跡があることから、店舗も大正12年前後の建築と考えました。土蔵は店舗付き建物として推薦可能と思われます。

以上です。

(古谷会長)

ありがとうございました。

(増崎主任学芸員)

先ほど土蔵の年代を「大正8年」と発言しましたが、「大正12年」の誤りです。訂正致します。

(小栗係長)

資料1最終頁「広報ながれやま」表紙には「武村家住宅」が「イタリアンレストラン丁字屋」、「寝具ササヤ土蔵」は「蔵のカフェギャラリー灯環」と営業している写真が掲載されております。これらは市の産業振興部商工課の補助金を改装費用等に活用した事例です。

現地視察確認頂きたいと思っております。以上です。

(古谷会長)

只今の説明について、御意見のある方いらっしゃいますか。

(小川委員)

23頁「大正拾貳年」の上棟式の棟木ですが、「根本仲吉さん」は大工ですか？その右の「〇谷」は地名でしょうか？この辺に「谷」が付く地名はありますか。

(日塔委員)

「天谷」ですね。

(松浦委員)

「あまや」ではないですか？

(小川委員)

「あまや」ですと、埼玉と思いますが。

(古谷会長)

他に御意見ございますか。次の議題に移ります。

【議題】(2) 平成24年度流山市文化財保護推進事業実施状況について

(古谷会長)

事務局より説明を願います。

(小栗係長)

平成24年度は文化財の調査・周知事業3件を実施しております。詳細は担当の増崎主任学芸員から説明致します。

(増崎主任学芸員)

24年度の事業について報告させていただきます。

調査・周知・補助事業は3件です。

まず、資料1・32頁の秋元家店舗住居解体に伴う実測調査は、酒販店(屋号秋藤)を営む秋元宅が今回の震災で被災したために解体となりました。そのため急遽、実測調査を行ったものです。

34頁の写真に見られるように震災で屋根瓦がかなり落ち、大黒柱も沈んだ状態となりました。修復か新築の判断を迫られまして、残念ですが解体が決まりました。

35頁の写真では、1階の大戸一昔の商家の潜戸みたいなのが残っており、解体時に動かしてみたらちゃんと動きました。

また棟札等の確認のために、完全に建物が解体されるまで私が朝夕通いましたが、残念ながら確認できませんでした。なお、秋元家は新選組の陣屋跡、蔵のあるお宅です。

2件目は文化財の周知事業ですが、38頁「花輪城跡」説明看板の面板取替工事を致しました。劣化のために文字の判読ができなくなったためです。劣化原因は樹木(樹脂)と考えています。

3件目は市指定文化財の「浅間神社富士塚」の頂上に建立されている石碑の基礎部等の補強工事です。資料39～41頁です。石碑の基礎に震災による亀裂が生じているため、石碑の倒壊や近接する住宅への安全対策として実施しました。

以上が平成24年度に実施した事業の報告です。

(古谷会長)

事務局より説明について、御意見のある方はいらっしゃいますか。

(松浦委員)

「花輪城」の看板作成方法について、もう少し説明をお願いします。

(増崎主任学芸員)

旧状の面板は、文字を刻んだ薄いアルミ板を貼り込んで作成していました。今回はこのアルミ板を撤去し、新たに作成した面板を貼り直したものです。

(松浦委員)

分かりました。その古い看板の耐用年数はどの位ですか？

(増崎主任学芸員)

ケースバイケースと思われれます。文字面の劣化がこれほど進行するとは、当時予想しませんでした。

面板には樹液跡がかなりあることから、看板を覆うように成長した樹木からの落液によって劣化が進んだと思います。

もう一つは、設置時のインクが化学変化したことも考えられます。

(松浦委員)

旧看板は、何年間ぐらい持ったのですか？

(事務局)

(建てたのは)昭和の終わり位ですので、約20年でしょうか。

(松浦委員)

古建築・建造物についてですが、流山市の旧道には町並みが残っていますが、町並みの建造物調査は行っていますか？

(小川委員)

県や産業博の調査があります。

(増崎主任学芸員)

面的な調査は実施していません。

県の依頼により「近代和風調査」を十年程前に行いましたが、これは旧道を歩いて該当する住宅を報告したもので、「点的」なものです。

あとは市内の神社・仏閣について「赤城神社」「中野久木の八坂神社」等を報告したことがある位です。

(小川委員)

市川の近代産業博物館からの調査は行われましたか？

(増崎主任学芸員)

私達が生涯学習課から博物館に来る前のことは詳細不明ですが、生涯学習課の頃は産業博から調査は無かったと記憶しております。

(小川委員)

平成12年頃に報告書が刊行されておりますが、流山市は0件です。

(下津谷委員)

花輪城跡の説明看板本体の経年劣化については、大丈夫ですか？

(増崎主任学芸員)

本体・枠の仕様は不明ですが、かなり確りとした作りで脚はステンレス、枠はポリカーボネイト（樹脂）です。現状では大丈夫です。

この説明看板は、「琵琶首観音堂の景勝」が発端で作成した特注の看板です。現在、市教育委員会が設置している指定文化財のタイプとは仕様・素材が違います。むしろ心配なのは、教育委員会が設置しているタイプです。これは角鉄柱なので腐食の恐れがあるからです。

(下津谷委員)

分かりました。文字面板の交換費用はいくらでしょうか？

(増崎主任学芸員)

17万円未満とは思いますが確認します。

(下津谷委員)

看板について、他に補足説明ありますか？

(増崎主任学芸員)

説明板は枠を外して交換することも可能です。但し角鉄柱なので、10年位で経年劣化による腐食が想定されます。ステンレスは値段が高いため、使用していません。

(小川委員)

秋元家についてですが、36頁の神棚からは守札等は出てきましたか？ 今後は、庶民信仰の把握のためにも母屋や蔵等で棟札だけでなく信仰の証である守札、またお札を確認していただきたい。

類例としては、西平井の吉田家より収集させて頂いてますが、流山市内ではまだ1件のため、少し収集例を増やしたい。現在、野田で3件、後1件整理中という状況です。

私たちのグループでは房総半島全体を調査しています。この作業により、従来の金石文化とは異なる信仰と庶民の新しい原理原則が見い出せそうな状況です。

また町場の場合、どうも大正以降に建てられた建物の天井裏には、守札は無く、恵比寿様とか神棚の中にあります。農村では、戦前若しくは昭和10年代位まで建てた家屋であれば残っています。現在、町場に無い理由を調査しています。

また以前に「屋敷神の調査」で報告致しましたが、北に古い家があります。是非追加でお札の方も確認して頂きたい。十枚でも二十枚でも資料が追加されると非常に嬉しいです。また紙の専門家もいらっしゃいますので、研究の深化が望めます。よろしく願いいたします。

(小栗係長)

小川委員からの注意点は今後活かしたいと存じます。

また皆様にもお声をお掛けし、開発前の早い段階での調査が行われるよう、注意していきたいと思います。

(古谷会長)

他に御意見ございますか。

(日塔委員)

解体された秋元家ですが、今回の資料の写真を見ますと、なかなか良いお宅と思います。一度も中を拝見できなかったことは残念です。

秋元家は洋風が入っていない伝統的な建て方で、建築年代が明治初期まで遡る可能性があります。図面や写真だけでは判断できませんが、江戸時代からの工法で、しかも上等な家の造りです。

柱は少し弱い感じを受けました。現在は瓦葺きではありますが、柱の細さから、初期は軽くて簡単な板葺きではなかったかと推察されま。また板葺きであれば江戸末～明治の建築年代と思われます。

次に富士塚の石碑ですが、現地での確認や資料40頁の基礎工事状況の写真から、碑は深く埋まっているように思えます。工事前に地中を調べれば、碑の形状が把握できた可能性があったと思われます。

以上です。

(古谷会長)

他に御意見はありますか？

(小栗係長)

次に「平成23年度及び平成24年度の埋蔵文化財保護関係の事業」について、北澤主任学芸員が説明致します。

(北澤主任学芸員)

資料3に基づき説明致します。

まず平成23年度の発掘調査状況ですが、5件の発掘調査を行っています。①・②の「小谷貝塚 G 地点」は個人住宅の建替に伴う確認調査と本調査です。本地点は縄文時代中期の環状集落である「中野久木谷頭遺跡」に近接していることから、同時代の集落遺跡と考えていました。調査結果では中期集落が検出され、更に縄文時代後期の堀之内～曾谷式期の集落遺跡でもあることが明らかになりました。現在は国庫補助金の事業を受け、報告書作成中です。

次に③・④の「長崎金乗院遺跡第2地点」は保育所の建設に伴う確認調査と本調査です。調査では縄文時代～近世の遺構が検出されました。注目される遺構には、猪や野犬除けのために掘られた穴の列・「シン落し列」があります。この遺構がムラの中に築かれたものか、外かは不明のため、今後の検討課題とします。

⑤は「三輪野山貝塚第10地点」の確認調査です。三輪野山貝塚は縄文時代後期・晩期の遺跡で、一部が区画整理事業地内の「三輪野山4号公園」として保存されています。今回は周囲に柵を設置する工事のため調査致しました。調査の結果、縄文時代晩期の包含層、後期の貝ピットや住居跡の一部が検出されました。

続きまして「平成24年度の調査状況」について説明いたします。今年度は発掘調査が多発しております。

ここで資料の訂正があります。資料3では実施件数13件と記載していますが、②の「加町畑遺跡 J 地点」確認調査と⑪は同一ですので、正しくは12件です。訂正させていただきます。

①・④の「名都借城跡」では確認調査及び本調査を実施しました。名都借地区は市街化調整区域であり、発掘調査事例の少ない地域です。調査地点は中世城跡の外縁部に当たり、中世のムラ跡や地下式坑等が検出されました。城を中心としたムラの様子が明らかになりました。

③の「野々下貝塚」確認調査はアパート建築に伴い実施しました。調査の結果では、縄文時代後期・晩期の貝層や住居跡が検出され、現在、今後の事業継続について事業者と調整中です。

⑤・⑥及び⑨・⑩は「上新宿野馬土手」の確認調査です。同一遺跡のため併せて報告致します。第1・第2・第3として実施した一連の調査では、長さ約200m分の野馬土手・野馬堀を精査致しました。この土手は保存状況が良好であり、開発による消滅は残念です。

⑩の第3地点では土手下の土層から縄文時代晩期の埋設土器を伴う土坑を1基検出したため、続けて本調査を実施しました。

⑦・⑧の「このす台第Ⅳ遺跡」では確認調査と本調査を実施しました。調査原因は宅地造成です。調査では縄文時代前期の住居跡が検出されたため、継続して本調査を行いました。

⑪の「加町畑遺跡」地点」確認調査は、過去に実施しました「加地区遺跡群」内の未調査地点に当たります。調査結果では古墳時代～平安時代を中心とした集落跡が検出されております。このため⑫本調査については、事業者との協議の結果、9月～12月中旬の予定で民間発掘会社による調査を実施しています。

⑬の「西平井二階畑遺跡」では本調査を実施中です。市ではTX関係の区画整理事業に伴う調査を継続しており、これまでの調査で縄文時代～近世に至る遺構・遺物等が確認されております。

「西平井二階畑遺跡現地説明会」資料は11月3日に開催した資料です。当日の参加者は約200名程です。

また町畑遺跡」地点にも、11月23日に現地説明会を実施しており、あいにくの雨のにもかかわらず約100名の参加者がありました。

今後の調査予定は、⑬の「西平井根郷遺跡」であります。以上です。

(古谷会長)

只今の事務局より説明について、質問ありますか？

(下津谷委員)

「西平井二階畑遺跡」の現地説明会資料(3)番目「古墳・奈良・平安時代」に「鉄製品を造っていた工房跡が発見された」の時代・時期はいつですか？

(北澤主任学芸員)

おそらく9世紀代です。その工房に関しては、集落から離れた標高

2.2～1.4 mに及ぶ斜面の一番下の方に小さい住居が2軒だけ検出されました。

(下津谷委員)

住居跡に柱穴はありましたか？住居はどのような形状ですか？

(北澤主任学芸員)

住居跡内及び周辺に柱穴は確認できませんでした。住居跡の形状は方形です。

(下津谷委員)

住居跡の深さはどのくらいですか？

(北澤主任学芸員)

斜面を削って掘りこんでいたため、壁は斜面側のみ残っていました。壁高は20～30 cm程度です。

(下津谷委員)

鉄クソの出土量は？

(北澤主任学芸員)

鉄クソの出土量は少量ですが、鍛造剥片が検出されていますので、小鍛冶を行っていた住居と想定しています。

(古谷会長)

他に御意見はありますか？

(小川委員)

西平井の現地説明会資料「地下式坑が200基出ている」と記載がありますが、この遺構の目的は何ですか？遺物は出土していますか？

(北澤主任学芸員)

地下式坑の性格は諸説ありますが、遺物がほとんど出土しないことが大きな特徴です。15～16世紀が主体で、近世には造られなくなります。貯蔵施設や一時的に財産を隠す施設と考えられています。かつては墓坑説が主流でしたが、人骨出土例はほとんど無いため、私個人では前者の説が強いと思います。

(松浦委員)

地下式坑の深さはどのくらいですか？

(北澤主任学芸員)

(現説資料裏面参照) 入口に相当する豎坑の深さは約1～1.5 m、地下室まで入れると約2～3 m程度です。地下室の大きさは約3 m×

2 m程度で、室内の高さは約1 m程度です。

(古谷会長)

他に御意見はありますか？

(常木委員)

発掘調査を行っているのは、加町畑遺跡だけですか？

(北澤主任学芸員)

今年度は1件「勾玉工房」の調査のみです。今日配布致しました「向下遺跡」「野々下元木戸遺跡」の調査報告書は、倒産した「山武考古学研究所」が実施したものです。2件共に整理途中での倒産のため、報告書未完の事態になりました。そこで平成22・23年度に「緊急雇用創出事業」補助金を申請し、残る整理作業と報告書作成までを市が発掘調査会社が委託契約を締結して刊行致しました。

(常木委員)

「勾玉工房」の選定はどのように行ったのですか？

(北澤主任学芸員)

民間開発の場合は、事業者さんに千葉県教育委員会が作成しました「民間発掘会社掲載リスト」を渡し、この中より調査会社を選択して頂くという形を勧めております。

(常木委員)

その選択には市教育委員会は関わっていないのですか？

(北澤主任学芸員)

発掘調査会社から調査期間や作業内容等の書類を提出して頂き審査します。また適正な調査が行われるように三者協定を事業者さんも含めて締結します。市は発掘調査の指導・監理を行いますが、契約金額や会社選定は、事業者さんと発掘調査会社の間で進めて頂きます。

(常木委員)

そのリストはどのような根拠のものですか？

(北澤主任学芸員)

千葉県教育委員会が作成しました「民間の発掘会社導入に関する基準」、「民間発掘会社掲載リスト」です。それを提示しております。

(常木委員)

例えば山武考古学研究所が県の「民間発掘会社掲載リスト」に記載されていますが、倒産するような会社が入っている訳です。倒産はど

うしようもない事態ではありますが、千葉県や文化庁の指導や責任問題は大きな問題点と考えます。

また現地説明会の主体はどこですか？

(北澤主任学芸員)

町畑遺跡の件は勾玉工房が主体で、市もサポートして実施しました。

(常木委員)

現地説明会の費用は調査費に含まれているのですか？

(北澤主任学芸員)

現地説明会の開催は協定に盛り込みました。毎回必ず実施するわけではありませんが、今回は見応えがある見通しが当初からあったので、開催実施の方針で行きました。費用は発掘会社によって間接経費や調査費に入れるなど、様々です。

(下津谷委員)

現地説明資料「すり鉢状遺構」の深さどのくらいですか。

(北澤主任学芸員)

深さは約3m程度です。

(下津谷委員)

この遺構の性格は何ですか？井戸とは違う遺構ですか？

(北澤主任学芸員)

古代の氷室と云われている遺構に類似していますが、氷室には底部にもう一段土坑が付属します。今回の「すり鉢状遺構」は底部の土坑がありませんでした。そのため、遺構の名称は苦慮しました。

近隣では市川市に氷室のような形状の土坑が検出されています。覆土からは貝層と共に馬骨・獣骨が出土しており、8世紀後半～9世紀初めの土師器や須恵器が大量に出土しています。「すり鉢状遺構」も市川例と同じ状況の出土状況で、9世紀前後の時期を考えています。

(古谷会長)

他に御意見はありますか？

(松浦委員)

上新宿野馬土手は小金牧の中でも、かなり残りの良い土手でした。現在でも流山市内には何ヶ所も土手は残っていますが、開発の進む現状から1ヶ所位は市指定として保存してもいいのではないかと思います。青木更吉さんの『野馬土手は泣いている』という有名な本があり

ますが、今後野馬土手の保存というか、対応・対策を考えて頂きたい。

今後は野馬土手の測量作業を始め、保存を真剣に考えるべきです。

(小栗係長)

市内で主要な野馬土手は、江戸川台・松ヶ丘・長崎・そしてこの上新宿の合計4ヶ所です。江戸川台は市の所有地、松ヶ丘は国の所有地です。柏との市境にもありますが、何とかしたいところです。長崎と上新宿は民有地のため、看板等の設置で周知を考えております。

いずれも市街化調整区域であり、あまり土地の動きは無かったのですが、今年度は急激に200m以上が開発によって消滅しました。市としては危機感を持たなければいけないと考えております。

(古谷会長)

他に御意見はありますか？無いようでしたら次の議題に移ります。

【議題】(3) 流山市国・県文化財保護事業 補助金交付規則の制定について

(古谷会長)

事務局より説明願います。

(小栗係長)

資料2をご覧ください。「流山市国・県文化財保護事業 補助金交付規則」が、平成24年10月29日に公布・施行されました。2頁から4頁に条文が記載されております。

5頁ですが、補助対象は国・県指定文化財と国登録文化財です。国・県指定文化財については、国・県が実施する補助対象事業に、流山市が随伴して補助できるよう、支出根拠や書類等を整備致しました。

また国登録文化財は市単独の補助金で、補助率が1/2、補助額100万円を限度としています。国登録文化財については、国に修理・設計費用の補助制度しかないため、市が積極的に工事費の補助を行うためのものです。具体的には、国登録有形文化財に登録された寺田園旧店舗(見世蔵)の屋根修理工事に対する工事を今年度行う予定です。

以上です。

(古谷会長)

事務局より説明のありました「流山市国・県文化財保護事業 補助金交付規則の制定について」質問ありますか？ 無ければ次に移ります。

【議題】（４）「その他」

（古谷会長）

御意見ありましたら、発言願います。

（小栗係長）

利根運河の国指定に向けて動きが少しありますので、報告致します。
先日15日、利根運河の視察に文化庁から 技官、県の文化財課
氏がお越しになりました。その後、県文化財課からの話では、
文化庁から連絡があり、「記念物課内で国指定に向けて動きたい」との
ことでした。

（古谷会長）

これに関して何か御質問はありますか？

（山田委員）

オランダ皇太子殿下が来られたのは利根運河ではなかったですか？

（小栗係長）

そうです。ムルデルの碑等をご覧になりました。

（山田委員）

市には連絡ありましたか？

（鈴木館長）

内密であり、事前にあまり通知はありませんでした。

（古谷会長）

他に質問ありますか？無ければ次の議題に移ります。

【議題】（５）「現地視察」について

（古谷会長）

事務局よりお知らせ願います。

（小栗係長）

資料4 1頁をご覧下さい。視察順に視察物件を説明致します。

①中の長福寺愛染堂では、愛染明王坐像の復元修理と安置状況、説明看板を確認下さい。

②鱒ヶ崎・三本松広場では市指定記念物候補の樹木、イタジイ・ムクノキを実見下さい。

③流山七丁目の赤城神社では、市指定有形文化財の本殿及び記念物候補である、境内の樹木を確認下さい。

④光明院では、市指定記念物候補の樹木を実見下さい。

⑤流山三丁目・庚申講⑤では修理状況の確認を確認下さい。

⑥寺田園旧店舗では国登録有形文化財の修理と説明看板の設置状況を確認下さい。

⑦ましや呉服店の土蔵では、市指定有形文化財候補を実見下さい。

⑧流山二丁目・浅間神社富士塚では、修理補助金の交付した証として、施行後の状況を確認下さい。

⑨寝具ササヤ土蔵及び⑩武村家住宅については、国登録有形文化財候補の確認下さい。

樹木については鑑副会長に先行調査を依頼しておりまして、現地でも説明を頂戴したいと思います。

建造物につきましては日塔委員からの説明をお願い致します。

赤城神社、ましや呉服店は、管理者・所有者の方にご報告頂きます。それでは、鑑副会長に樹木関係の説明をお願いしたいと思います。

(古谷会長)

では、鑑副会長お願いいたします。

(鑑副会長)

資料4に「流山市史」の中の「植物編」を添付しています。平成元年の刊行で、(23)「光明院」タラヨウの記載があります。タラヨウは「ハガキの木」とも呼ばれ、ボールペンなどで上から書きますとタンニンの効果で真っ黒に字が書けるので、昔は経文等を書くのに使いました。光明院の境内では参道脇にあります。

(19) 鱒ヶ崎の道祖神では、祠の裏側に1・2・3・4・5・6で記載されているイタジイとムクの木があります。現在でも鬱蒼としています。1～4がイタジイで、シイノキと呼んでいる仲間です。

5・6はムクですが、今はこの図よりも繁っています。

現在、巨木の名称区分は「巨樹」(樹幹の太さが5m以上)、「巨木」(同3m以上)、「大木」(同3m以下)ですので、イタジイの目通り(目の高さ)2.14mや4.42mの大きさは、巨木に該当します。また状態も良い。市内では貴重な存在といえます。

ムクの葉はザラザラしているため、床柱やベッコウを「磨ぐ」道具でした。雌雄同種の木です。実は甘美で、私はよく採って食べました。

次は赤城神社ですが、境内に「ムクロジ」という木があります。ム

クロジは正月の羽つきの羽の球に使われています。また流山市史の植物編の円東寺には「市内最大のムクロジがある」と記載があります。

今後は候補挙げて指定を更に考えなくてはならないと思います。

これでタラヨウ・イタジイ・ムク・ムクロジの説明を終わりにします。

(小栗係長)

副会長ありがとうございました。次年度もよろしくお願い致します。

(古谷会長)

それでは本日の会議はこれで終了し、現地視察を行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

以上